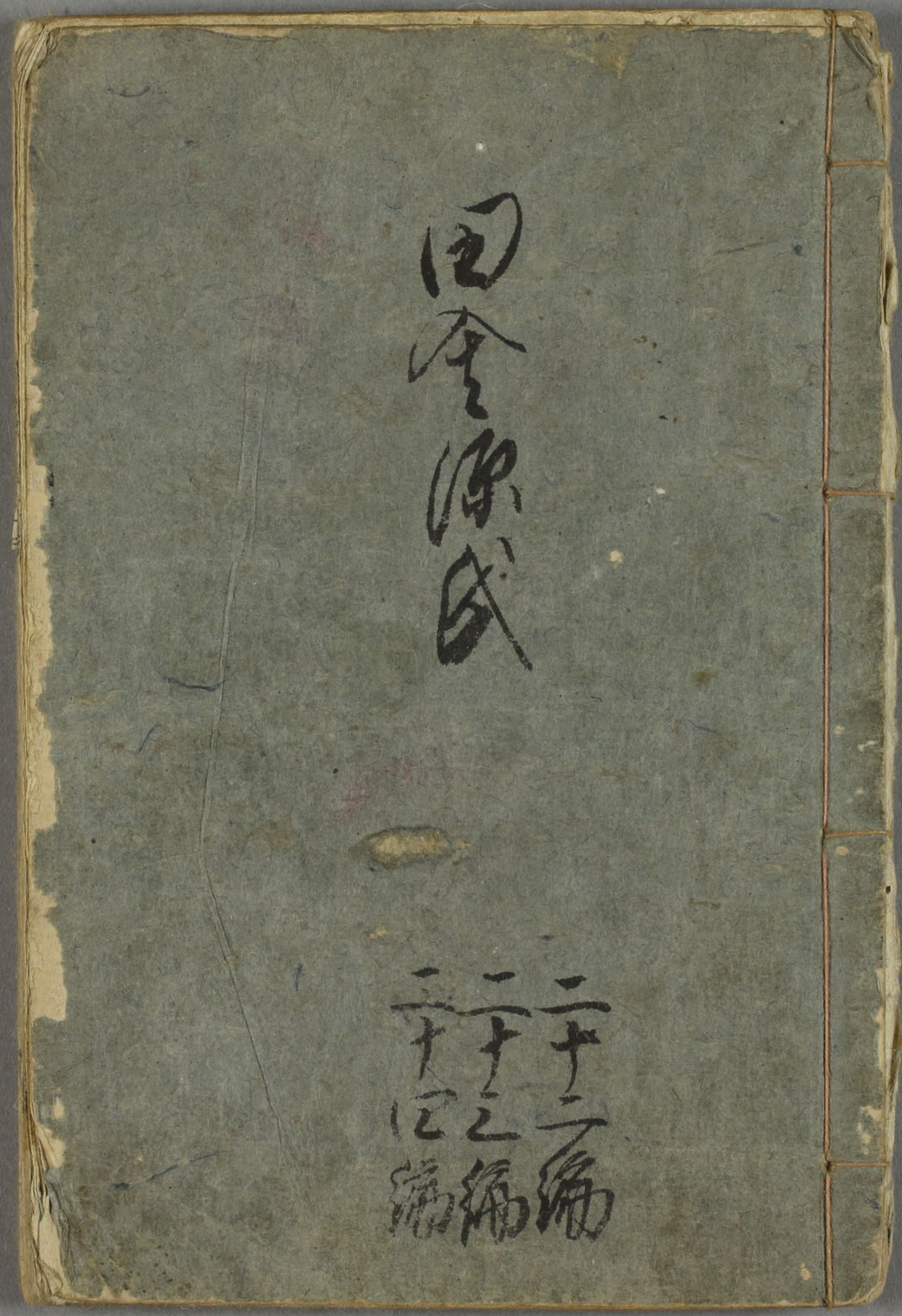
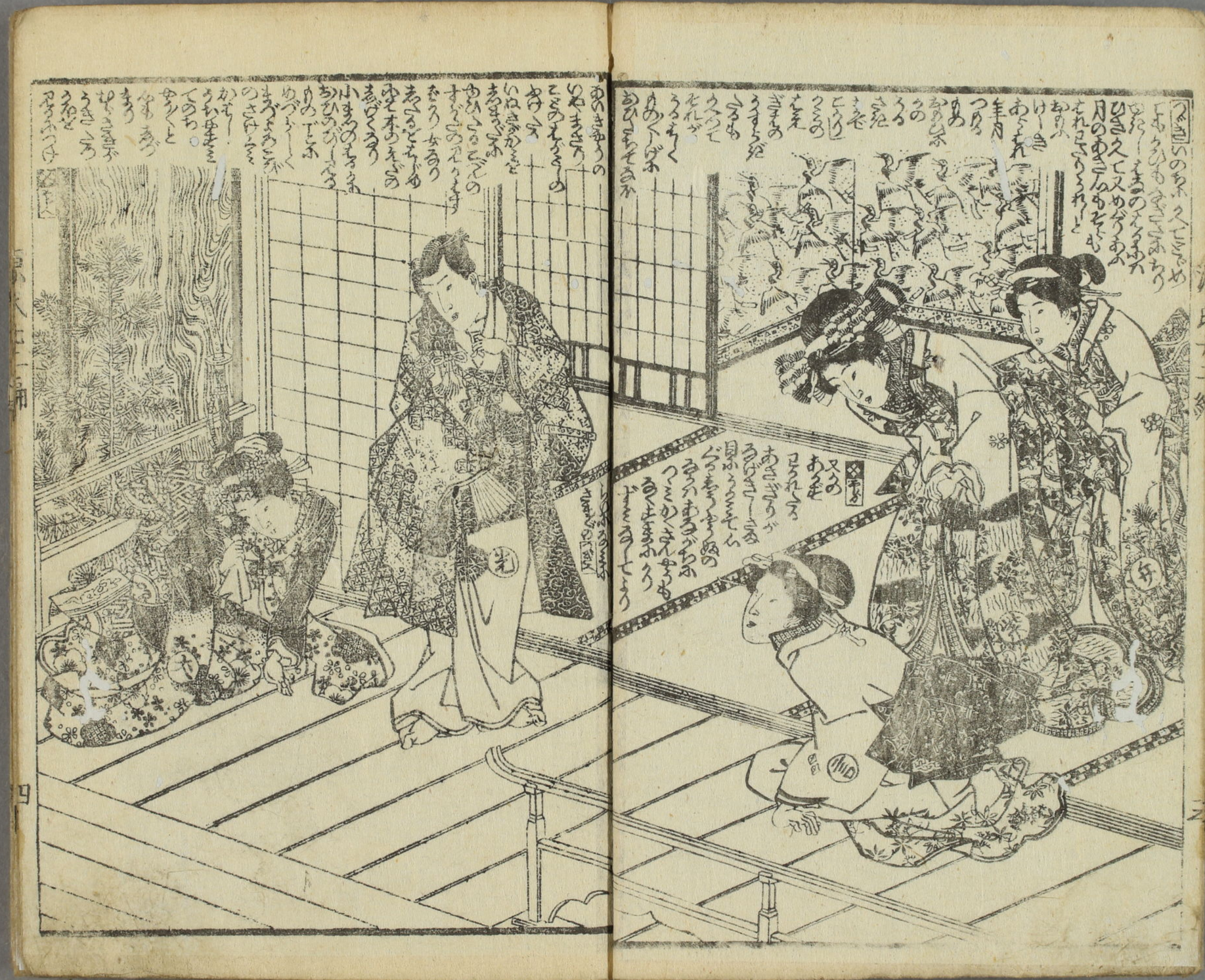

因幡源氏
二十二編
二十三編
二十四編

九二番　上の巻

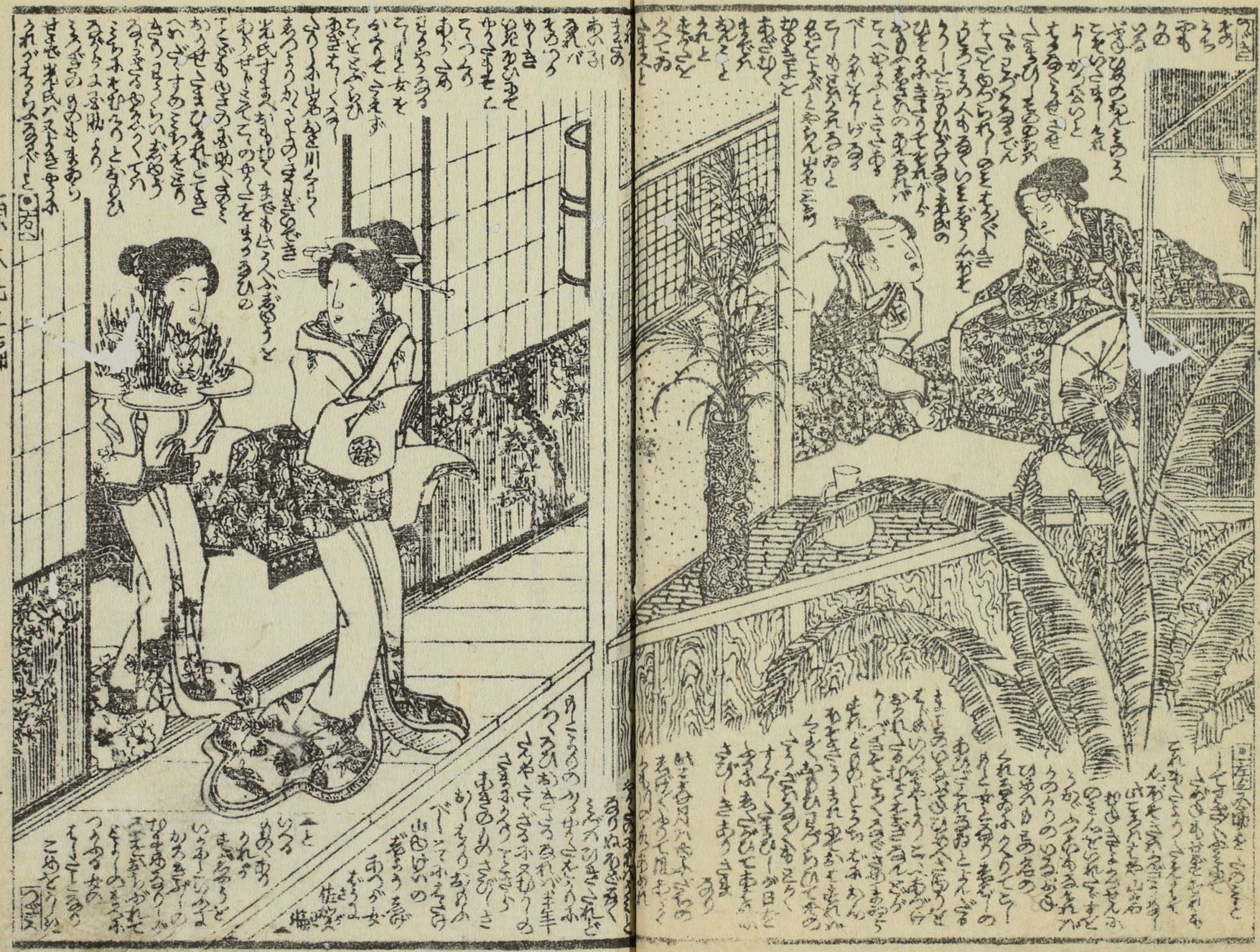
御子孫方ふ告奉る俵紫ゑ八稲舟姫。本紫ゑ常陸乃宮の。
姫君の荒ふる宮ふおちて汝ち事と綴ゑし。蓬生の巻八源氏の頃ゑ人
下りぬゆ〜頃ゑ。姫君の落居の事まそと書載て前後ゑ
物語ゑう。近く聖言八忠臣藏の。七段目ふ平右衛門。田侍と説ん
とて主人の國へ飛脚ゑ行時ゑ家没落ゑ驚きて非人とあり。
師直と移らへと討得ぞ古郷へ逃免父及勘平ゑ横死ゑ連報ふ
加りて本望と遂早ゑちふ行事まそと記しるバ三段目の条ゑ
十一段目の後へ是ゑ。蓬生もそれふ同し。故ふ明一名の
沙へ揉あげ。僅ゑ大式の北の方のゆりて驚く大詰のこと。後年のうちふ
加ふりゆ〜れつ見びあり〜と。第へもゆるハ一カ屋ぞ。敵ハ用心嚴しく
てと又五段目の前の事とゆひ出もゑ斎し名れど。生にと文章と
かゑるゆ故ふ混雑せん欲

御亭和彦記

源氏十二編
思ひどもるびくくとうかん
ひのくぜとも紙をうづりよ
さくらどもちきるまう
京八七二編
これまうり世式海山よ
約めぐり美魚浪に
うさきちづむ水を



二
四郎正尚
光氏のゆく久ふ



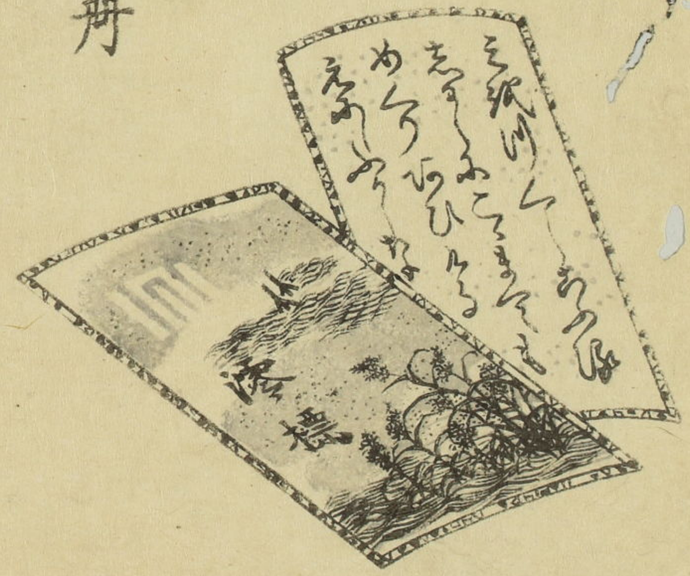
種彦作國貞画

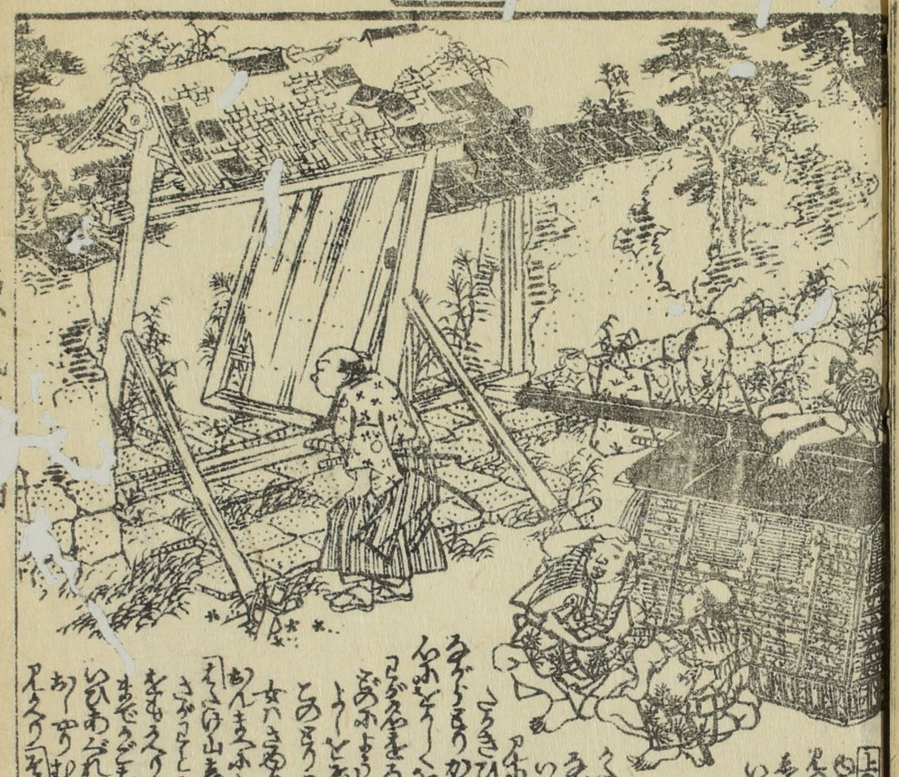
偐紫田舎源氏

種彦作
國貞画

第九二編 下冊

通油町 鶴屋喜右衛門板



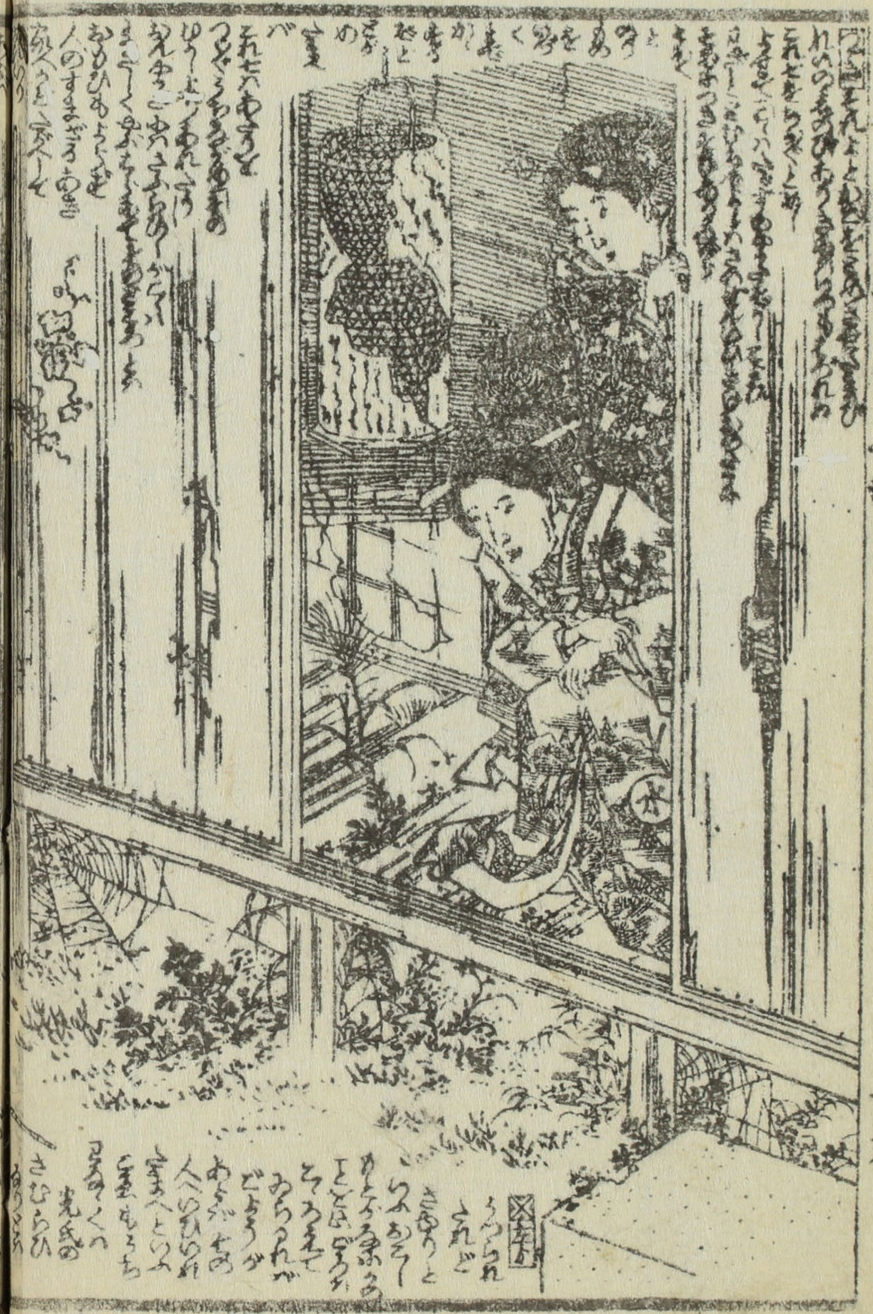


上の巻うら さきあそもの
のうるくへのうるを
ゆけーとの少てあさま
ゆうまーげくるびやうぎを
いをきひきめぐ〜〜
いをきるこーりと
女をさがまつぐ
そちらんふりめ
おりあるようらん
くもるどいあさくへ
ゆうるをめきあげふ
いやーくもちんくあ
ゆくーとうひさの
ゆうきひやうとあをまと
ゆうるうかるがようとまーと
ゆふそーくるとのせいぬん
ゆうるをまるあうりをぎ
ゆふまーじあれがあひるん
ようとをのひいまける
このろうつぎよいぞする
女はあうりゆそあうるるが
ゆんまふもーりえう
ゆうるけ山まびあつの女ぞう
さがるとヤスものぶまろけ
をもうえりんぞちげんさん
まぞうぞをのりつはうあうくと
いひあるれがいるぶあい琴
あーやりはーきのくさを
ゆうるのさがるとの人魚

魚のをみごれをまるの
ゆうるうちうきくと
どまれてもとー
まるみのでーるる
どころうついあいちと
あることもどうう
まあぬがうえるさん
きいてもりまるる
そのさがるはるるへ
どきるーさまの
おるーしをつとあ
ーとゆくるれのあるる
まるるゆるみごもがゆ琴民
さまをおるゆ まるるすと
いひとをりるんあるく
いひるーてうくまんりめ
じゆーとのいどりさるまの
ようるんあうねるも
るらうとるるあいるも
ござりまぬと
ゆうるぞがくるきいて
いるぶひめーるるこの
ゆくをゆゆきよが
うんゆてゆるんまれさ
ーとうかつゆ人魚
あれまるるると
ようきるのへんーとゆて
ゆるのまるーるものでん
るいうをゆさん

義姫仙女香
黒油義姫香
右両所とも
弘法製
作る事数
四年の工夫
なき所也
作る
三丁目
撃氏

真製杓杞の油
今の婦人の髪をどうの仕方と
して髪の毛の油
油あり後奥州産の
くまの油といふ
を加へ
本郷三丁目横町四丁目
給木陸奥掾



身代無長使

四合

上編三九

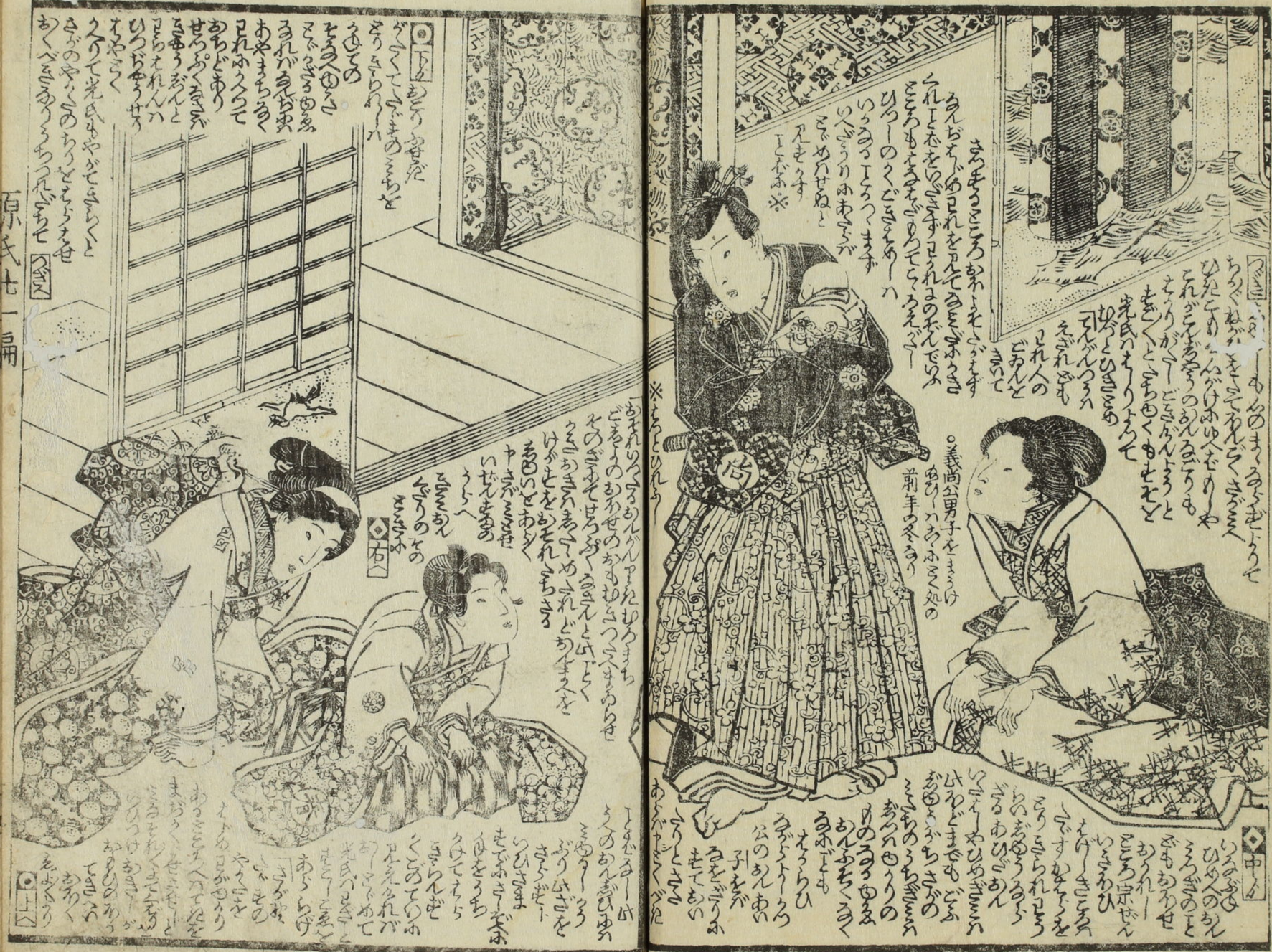
俤むらさき

田舎ぎりんじ

第九
三編
上冊

元禄十二年印本
水ヒラメ集
華足袋やすえつむ花の
ゐる衣桁　艶士

三彩作
真画
仙雀堂
梓



○義尚公男子をまうけ
ゆりーいあふさく処の
前年の冬なり

※ちらとひれふ

中人

右人

左人

種彦作 國貞画

源氏元一編

浄書千形道友

つぎき　ひさきぬけのゆうふ
るりつてこれもいざさず
そもとうろうとそうちふそ宗金うちゃうびを
ちゃらられもの子三郎ひきさよりうちめさられし
うんぶいふちうちゃんあれども天だろ
ゆでこもむらんさそみくも
さぐめすひとり一日ねて
くてしようハかくろて
さりれねぶりぶを光氏
ぎとひもちゅうよふ
うちかりどあこうひ
ひさーくせきれがぎぐのひ
ゆくゆもうらぎそうり
ーとさどちうもう
ひさもちう
ゆどりを
ちがむさま
きゆうきか
ゆされがさゆらし
どもよいさあらとて
月夜ふいぎさゆうぐうとう
あとうひようちめがうさま
さをれいりていそれぎおこと
ちげーくゆきうるわどう

為朝の源氏

第九四編 下冊

種彦作

国貞画

仙崔堂壽梓

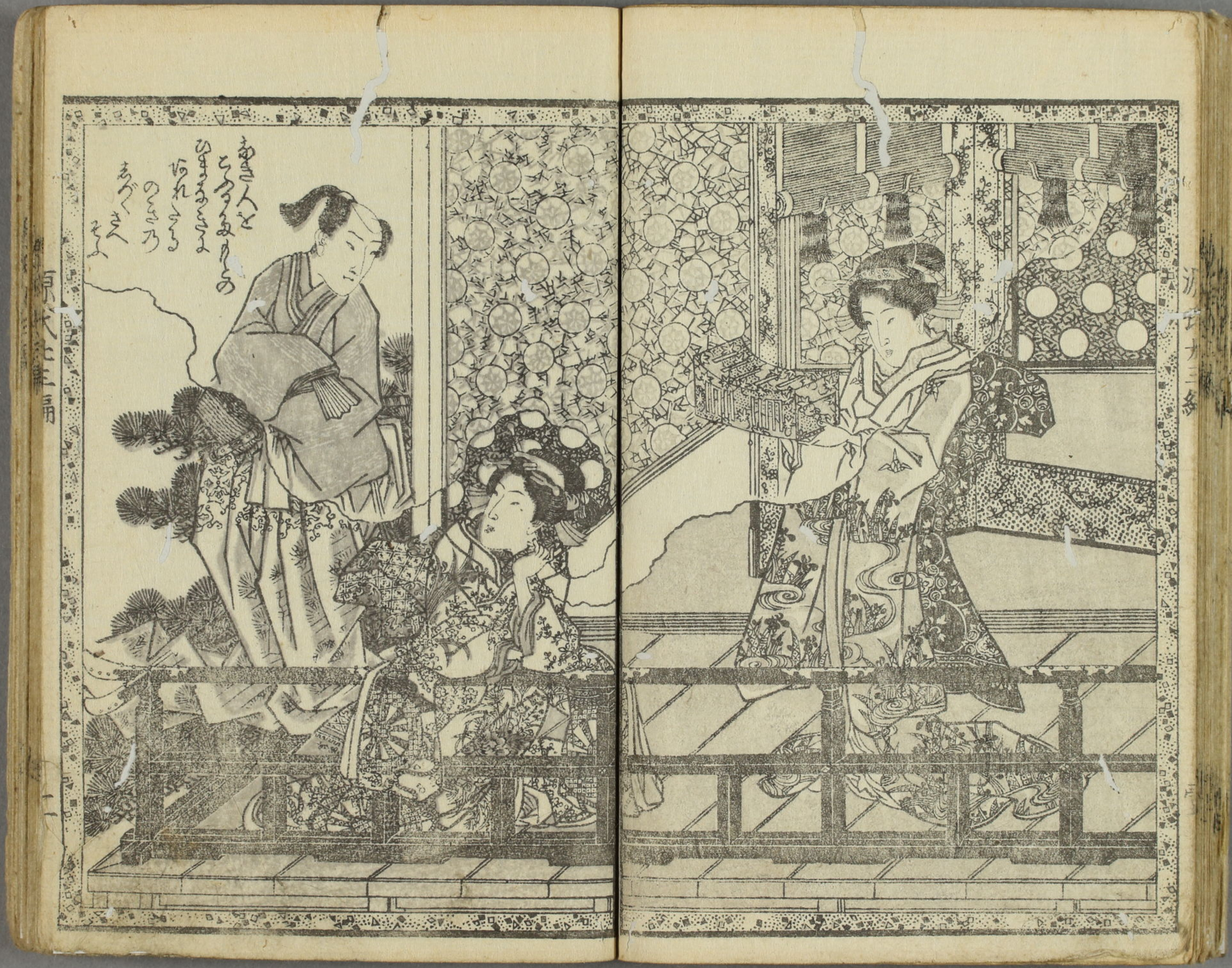
かくさ洞とや法師
くとくとせきとめ
法師と人もなるらん

修紫田舎源氏第九三編叙

楠死で大平記花和尚悟水滸傳もく源氏も須ア
明石の月よかれる薄雲の巻あるいは讀者の眼氣のさを処多く
田舎源氏ハ殊更ゑ婦女子ゑ見せる冊子ゑるまぶをとらえた書編
玉葛の巻あるいは飛ばべ御見物の歇がこめでよろらんるでゑ用世話と
やく者あるいしぶさまでの思ひこうるて式編ハ濃標と蓬生の打て
が関屋も縁語ゑ吹ゑるぐら碁を囲ーを垣間見のめのぞり程ハ空蟬ゑ
逢くまひてもあるいるを書ゆらせよとのひ一人の肉の昼ゑるをあよ
知り唯松風のさらくとあれもものをを綴ーゑ更ゑ與たく風情も
あるいされども為度の鎖ゑれを御もるあるされて歌所の絵合色
むるもえまえとかーこまりて記ゑなん

天保丁酉閑端

柳亭種彦


あきんとをとりてみりとの
ひまるをきよ
なれさる
のさろ
まぐさん
そよ

源氏十三絵

十二絵のつゞき

光六編上

國貞画
種彦作

田舍源氏

上冊

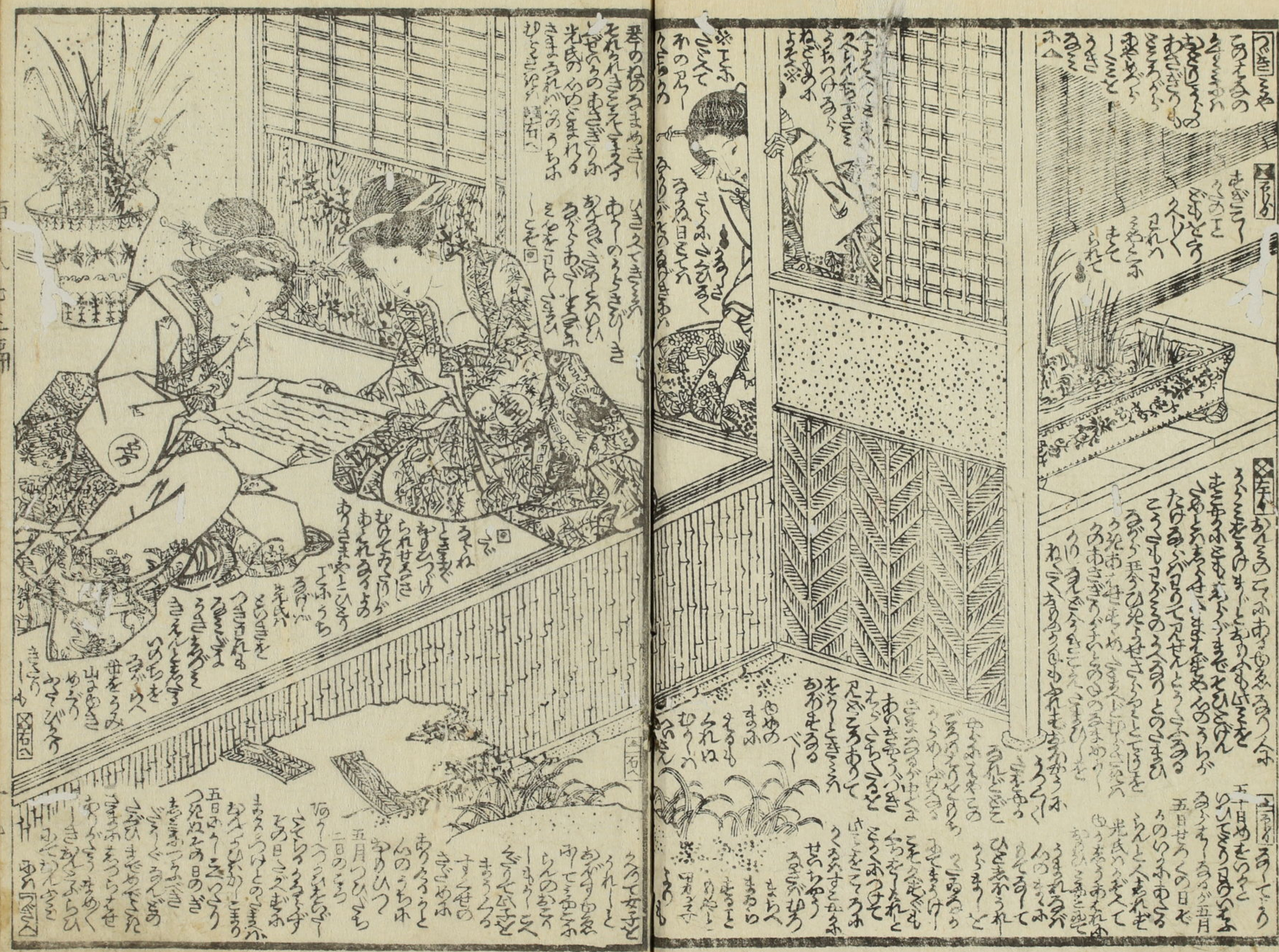
第廿六編

柳亭種彦作

歌川國貞画

通油町

仙鶴堂壽梓



源氏九十三編
柳亭種彦作
歌川國貞画
仁徳帝
四合
九十八編下

種彦作
國貞画

偐紫田舎源氏

第廿六編 下冊

清兵衛
板

笠翁新奇十種曲

寛政年間曲亭子の舊作画冊子十種抜萃再板

作者馬琴子校閲新序　歌川国芳新画

そもそ十種の画冊子は今より四十年あまりのむかし曲亭翁笠翁尚さかりし比の戯作にて本房を刊行せしに見るうけるそこの中も当時のおもしろ作とそもそみ出し翁の校閲新序を乞て更に画を新たに再板せしに幾年を経て樹の花と飾りて又貴物のごとく欲む。当今四十前後なる殿原も姫御達も未生以前の舊作なれば絶て久しく板元の是を求めて板あるとなしあの年のをゆゑ捐出さるべ世ふあの冊子と云ふ四方の君子ふたせまらむとく漫ふ思ひ起ふ近来翁の新作の稿本沿易ふ乗よりそ宜や清の笠翁十種曲の侍奇あれば亦笠翁十種作と名つけて和漢両奇才子の滑稽一致の趣を比喩あく梓ふ壽くるの八馴染累ねし二世の板元仙鶴堂を敬てまうさく。

天保

第一種　視藥　段引　馬琴作
第二種　無筆節用字盡　馬国画　琴芳作

丁酉仙鶴堂再刊十種目録

第三種　麁想案文當字揃　似字盡の後編なり　作者並ニ画工同前　馬琴作　国芳画

第四種　花見嬉虱盛衰記　虱盛衰記の後編　作者画工同前　馬琴作　国芳画

第五種　敵討蚤拿眼

第六種　備前播金一代記　馬琴作　国芳画

第七種　野夫鶯歌曲詑言　馬琴作　国芳画

第八種　春之駒象棋行路　馬琴作　国芳画

第九種　譬之節義理與情　馬琴作　国芳画

第十種　六冊懸徳用草紙　馬琴作　国芳画

右一種十六張を三冊の袋入合巻より仕り是より毎春一二種々再板賣出シ申入御覧候

家傳神女湯　製茶四谷塩の坂上東側　滝澤氏
精製奇應丸　日本橋竹河岸つきの中ゝ出ル　弘所元飯田町中坂下南側甲種丸紀沢氏
能服黒丸子

江戸本町筋通油町書林並地本暦問屋
板元　仙鶴堂　鶴屋喜右衛門

滝澤馬琴氏著

迎福南鐵録

一名相宅手引草　全部五冊　迎則

右同著

雅俗傳奇

大本　全五冊繪入　平假名附　迎則

女消息往来

画入　全一冊

醫助講釋　全一冊

俳諧今四歌仙　全一冊

梅室　永太　桐雨　小圃　四人の俳諧歌仙の流行を正風の書なり

劉卜子先生著

大全書状文例

消息往来評註　高井蘭山述　全一冊

隅田川両岸覧　北斎筆　袋入　全三冊

江戸名所東鑑　蕙斎筆　同　全三冊

江戸名所物見丘清長筆　同　全三冊

合則　壽福三世相大鑑　全一冊

東海道五十三次花の都路　諸大人　狂歌　同　全三冊

拳獨秘言　中本　代表人一冊　山櫻連々　逸軒搖用作

戯場顕微鏡　黙濤隠作　同　上帙三冊　下帙三冊

右五通共拵上品にして多部数に仕立

教真草消息往来　袋入　全一冊

物園註入　全一冊

瀧澤馬琴著

迎福南鍼録　一名相宅手引草　全部五冊　迎則

右同著

雅俗百傳奇　大本　全五冊　繪入　平假名附　迎則

女消息往来　繪入　全一冊

暦日講釋　全一冊

俳諧今四歌仙　全一冊　梅室　禾本　桐雨　小間　四人の作　正風の俳諧の流行を

劉ト子先生著

大全書状集文 [illegible] 全一冊

消息往来詳註 高井蘭山述 全一冊

隅田川西岸賢北斎筆 [illegible] 全三冊

合刷 壽福三世相大鑑 全一冊

江戸名所東鑑 蕙齋筆 同 全三冊

江戸名所物見丘清長筆 同 全二冊

東海道五十次花の都路 諸大人狂歌 同 全三冊

奉獨楽吉古 中本 山櫻蓮々逸軒搖冊作 全一冊

戯場顕微鏡 黙々漁隱作 上帙三冊 下帙三冊

教真草消息往来 [illegible] 全一冊

右五通共拔上品にして各部類に仕立 追物拔出物拔 [illegible]

御免江戸暦開板所 毎年十月下旬ごろ発行 [illegible]

載陽帖 南山禪師書 東海道四季和文章古摺本曾海道

新撰 日本名所之繪 唐紙摺一枚

道法早算用道中記 一枚摺

新撰 女古状揃園生竹 大本半紙本 両品出来 高井蘭山編撰

還魂紙料 柳亭種彦隨筆 古画入二冊

田喜菴輯 芦のしたゝき 芭蕉翁自筆 [illegible]

寰笠翁隨筆 玄同放言 初編二編共七冊 後刻 第三編三冊 近刻

三歌仙木校輯 同輯 芳州集 全一冊 板 開 追 刻

蘭集 全一冊

歡童戲筆 遊言画手本 一名鳥羽繪早すみ出来

廣益塵劫記 懷中早割大全 小本一冊

新形深彩目 楷花手引糸 前編出来 前北齋爲筆 後編嗣刻 先生稿

芝居役者似顔早稽古 後編 全一冊 五渡亭國貞画

八文字自笑評 三箇之津 藝品定 役者評判記 全三冊 相撲人交代 仕附 評判

即考百鐵 全一冊 鐵箱添

瀧澤馬琴著

迎福南鐵録 一名相宅手引草 全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳奇 大本全五冊 繪入 平假名附 近刻

女消息往来 四入 全一冊

暦日講釋 全一冊

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 禾木 桐雨 小圃 四人作

劉卜子先生著

六合書院業文

消息往来詳註 高井蘭山述 全一冊

隅田川西岸賢 北斎筆 袋入 全三冊

江戸名所東鑑 慧齋筆 月次 全三冊

江戸名所物見丘清長筆 月次 全二冊

東海道五十三次花の都路 渚大人 狂歌 月次 全三冊

合刻 壽福三世相大鑑 全一冊

拳獨乾坤古 中本 山櫻連々 袋入一冊 逸軒楊州作

戲場顕微鏡 黙々漁隠作 上帙三冊 下帙三冊

教真草消息往来 繪圖註入 全一冊

天保七年中春新彫

琴声女房形氣 全四冊 山東京山作 歌川國貞画	**森羅萬象心意氣** 全四冊 五柳亭徳升作 歌川國芳画	**浮波さうし** 八冊 柳亭種彦作 歌川貞秀画
烏勘左衛門忠義傳 全四冊 関亭傳笑作 歌川國芳画	**稲葉山操の松枝** 全四冊 宝田千町作 歌川國芳画	**國字水滸傳** 十四編 四冊 笠亭仙果譯 歌川國芳画

南傳馬町三丁目西側 坂本氏製衣
義艶仙女香 壱八分 黒油 義玄香 壱八分 馬次 徳屋藤右衛門

書物繪圖扇地紙問屋 鶴屋喜右衛門 江戸通油町

天保六年乙未春新彫

柳亭種彦作繪草紙三種

自問自答戯言句合　二冊
歌川國芳狂画

彦紫田舎源氏
歌川國貞画
十四編より十七編まで開板仕り

浮浪さうし　六冊
歌川貞秀画

種彦校合

枕琴夢之通路　仙果作　六冊
歌川貞秀画

上州機華綾織　木卯屋菊彦作　六冊
画人　上同

井筒の娘子　仙客亭柏琳作
八百屋の娘　紫房紋多箱　六冊
歌川貞秀画

はつる結び袋入小紙ぎり
種彦改正書　貞秀画
むつ嘶火　二冊
昔ばなしきちもんろく　三冊
学かい話浦島ぢくい　三冊
菜畨のいろは　二冊

美艶仙女香　仙女香場所彫
黒油美玉香　南伝馬町三丁目西川　坂木氏

書物錦繪　芦通油町
團扇地紙問屋鶴屋喜右衛門

天保六年乙未春新彫

柳亭種彦作繪草紙三種

彦紫田舍源氏
歌川國貞画
十四編より十七編表開板仕ル

自問自答戯言句合
歌川國芳狂画　二冊

浮浪さとり
歌川貞秀画　六冊

種彦校合

枕琴夢之通路
仙果作
歌川貞秀画　六冊

上州機華綾織
大丸屋菊彦作
上田人画　六冊同

井筒の乙子
八百屋の娘
紫房紋象箱
仙客作
柏林作
歌川貞秀画　六冊

清盛並び袋入小絵ざし
種彦作
貞秀画

むら〳〵新火
昔ばなしきちちゑんとく
雲かゝ浦島ぢい
菜書のいろは

二冊
三冊
三冊
二冊

美艶仙女香
仙女香製
南伝馬町三丁目西側
坂本氏

黒油美玉香
早稲屋

書物錦繪
團扇地紙
江戸通油町
問屋鶴屋喜右衛門

天保十年己亥初春新彫

楠一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

百人百首稚講釋 山東京山作 八冊 歌川國虎画

清盛一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

佐野渡怨敵懸橋 緑亭仙橋作 全六冊 五雲亭貞秀画

櫻風呂花半開 白雲洞主人作 全四冊 五雲亭貞秀画

藻塩艸須磨書替 松下樓麓谷作 全四冊 五雲亭貞秀画

無筆節用似字盡 曲亭馬琴作 歌川國芳画

視藥霞引札 各再板

美艶仙女香 四十八銅
黒油美玄香 南伝馬町三丁目西側 坂本氏製

書物錦繪 團扇地紙 問屋 江戸通油町 鶴屋喜右衛門

天保十年己亥初春新彫

偐紫田舎源氏

為年廿八編三十三編を開板おそくなりしかども発兌まもなし

柳亭種彦作
歌川國貞画

楠一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

百人首稚講釋 山東京山作 八冊 歌川國虎画

清盛一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

佐野渡怨敵懸橋 緑亭仙橋作 全六冊 五雲亭貞秀画

櫻風呂花半開 白雲洞主人作 全四冊 五雲亭貞秀画

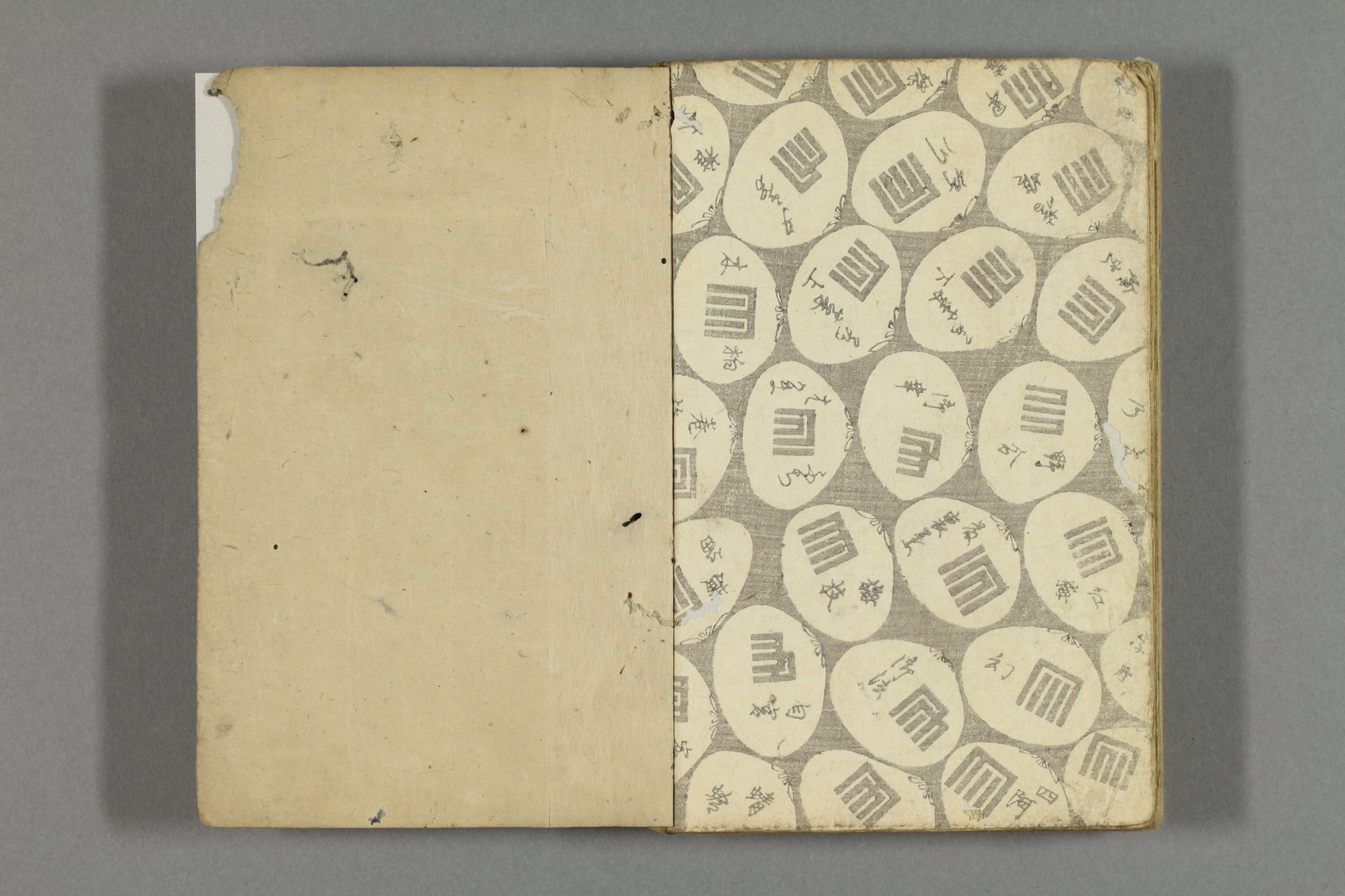
藻塩艸須磨書替 松下樓麓谷作 全四冊 五雲亭貞秀画

無筆節用似字盡 曲亭馬琴作 歌川國芳画

視藥霞引札 各再板

美艶仙女香 四十八銅
黒油美玄香 南傳馬町三丁目西側 坂本氏製

書物錦繪 團扇地紙 問屋 江戸通油町 鶴屋喜右衛門



たうひらせん